

## 地域・離島歯科医療実習 レポート

学籍番号： 4314100095

氏名： 大黒 幸代

実習先： 口之島

実習期間：平成 2年 1月10日 ~ 1月12日

### 1. 自然環境

立地：トカラ列島の一つで、標高 628m の火山島である。そのため温泉も 3か所存在する。口之島はトカラ列島の最も北にあり、十島村の玄関口となっている。鹿児島市から南に 204 kmに位置する。

フェリーは月、金の週二回出港し、約6時間で到着する。

気候：温帯と亜熱帯を混合した様子で、四季がある。

温暖多雨。平均気温 20℃。

植物：南帯系に属し、ガジュマル、アダン、ハマユビアなどの亜熱帯の植物が多い。タモトコリは県の天然記念物となっている。

動物：野生の黒毛和牛、トカラヤギが存在する。

面積：13.33 km<sup>2</sup>。周囲：20.38 km。



ガジュマル

### 2. 社会的背景

人口：159 人（2015 年）で男 78 人、女 81 人。

高齢化、出生率：具体的な数値は不明だが、高齢化が進行していると看護師さんから伺った。高校がないため、子供達は中学を卒業すると島外へ出て行く。移住イベントを積極的に行なったり、補助金により女性が子供を産みやすい政策をとるなど、人口を増やす工夫をしている。

産業：農業、畜産が主で、土木工事にも従事。そのほかに漁業、電力、施設、郵便などに携わる。

歴史：戦後はアメリカ軍の統治下となり、昭和 27 年に日本国に復帰した。縄文時代の土器が出土しており、当時の人々は口之島で狩猟や採集生活をしていたとみられる。

### 3. 住民の生活

風習：琉球文化と大和文化の接点。口之島の盆踊りには伝統的な狂言が組み込まれている。旧暦 11 月に行われる霜月祭りは有名で、神様にお酒やサトイモを供え、各お宮を回って遠くの家族の健康や豊作を祈る。

食生活：島には売店が一つあるだけで、物価も少し高い。開店時間は短く、朝と夕方だけである。自動販売機は売店の前に一台だけある。生活必需品や食料品は鹿児島本土や奄美にいる親戚から送ってもらったり、インターネット通信販売で購入しているため、週 2 便のフェリーは島民の生命線である。

生活：急勾配な坂が多く、車がないと生活しにくい。住民は支え合い、交流も多い。敬老会、運動会、文化祭など、地域の人々が集まることが多い。

その他：コミュニティーセンターには巡回式の図書があり、種類は限られるが借りることができる。







島には坂が多い

十島村山海留学生制度により本土の小・中学性が留学している。  
島に定住しやすいように村が助成金を出したり、子ども手当を支給したり、様々な工夫をしている。

#### 4. 医療供給体制

口之島診療所には看護師が2人常駐しており、月2回ほど医師がやってくる。  
以前は産婆さんがいて島で出産していたが、現在は鹿児島市内や奄美大島で出産する。  
緊急時にはドクターヘリで鹿児島市や奄美に搬送して対応するが、奄美に行く方が早い。  
鹿児島本土や奄美に親戚が多く、長期休暇などで治療を済ませることも多い。

#### 実習概要

日付	内容
10日	23時 フェリーとしま2出港
11日	<p>5時 口之島到着</p> <p>8時 コミュニティーセンターにて設営</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: right;"><b>診療ブースの設営</b></p> <p>9時 診療開始</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: right;"><b>診療の様子</b></p> <p>① 下顎右側87 C2 コンポジットレジン充填 上顎左側の第二小臼歯と第一大臼歯間の歯周炎による歯肉腫脹は経過観察とした。</p> <p>② 義歯修理 義歯床が破折したため、ニッケルクロム補強線を併用して即時重合レジンで修理を行った。</p>

- ③ 下顎左側三大臼歯（智歯） アクリノール洗浄  
水平埋伏により隣接歯の第二大臼歯を圧迫。1年に1回ほど疼く時がある。抜歯のためには相応の医療機関への紹介が必要なため、再度考えたいとのこと。疼いた時は痛み止めと化膿止めに対処することとした。
- ④ 感染根管治療の続き  
前回カルシパックスによる根管貼薬後、キャビトン仮封していたのでその続き。今回もカルシパックスで根管貼薬し、キャビトン仮封した。次回、コンポジットレジン修復。
- ⑤ 舌のピリピリ感主張  
視診にて左側舌縁部に発赤、潰瘍あり。硬結なく、悪性腫瘍の疑いなし。  
歯を触る癖があり、左側ばかりで噛むため、習癖除去の指導を行い、経過観察とする。
- ⑥ 義歯調整  
食事すると痛い。開口時に上顎義歯が落ちてくる。
- ⑦ 上顎左側犬歯の歯根破折、上顎右側第一大臼歯部の膿瘍形成。（見学不可であった）
- ⑧ 上顎右側犬歯の不良修復物 コンポジットレジン修復  
歯肉出血、腫脹もあり、全顎的に歯石除去を行った。
- ⑨ 義歯調整  
下顎に大きな骨隆起あり。咬合時に痛みがある。義歯が骨隆起に当たっているため、当該部を削合した。
- ⑩ 全顎な歯石除去  
下顎右側第二大臼歯が破折し、膿瘍形成を認める。4月に島外へ出る機会があるとのことなので、その時に治療することを勧めた。



こじか号での  
診療

12日

8時 診療開始

⑪ 抜歯後消毒（⑦の患者さん）

9時 片付け開始 12時 口之島出港

18時半 鹿児島到着

片付け  
(こじか号に  
積み込む)





## 振り返り記録

・朝5時に口之島港に到着すると、到着する物資や荷物を待っている方々がいて、朝早くから大変なのではないかと思ったが、島の人は早寝早起きらしく、そんなに不便を感じないとのこと。ただ、フェリーの欠航などで流通が滞ると大変とのこと。



荷物の到着を待つ人々

・常駐している看護師さんから話を聞くことができた。都会から口之島に来て、断然いい暮らしになったという。野菜や果物は島民の皆さんからもらうことが多く、美味しく安心して食べられる。魚も新鮮で美味しい。島民同士で何事も助け合っている。子供は自然の中で伸び伸び成長でき、安心。みんなでボール遊びをしたり、土日もみんなで学校の体育館で空手をしたりして交流する。売店はあるがお菓子などは高く、買わなくなった。すると子供もお菓子を食べなくなり、虫歯も少なくなった。とても健康的である。島の人々はみんな本当に優しい。都会では車も多く、親の目が届くところでないといふ事故しそうで怖かったが、口之島ではそういう意味でも安全に遊べる。

・義歯の修理や調整も多く、完成後に『ありがとう』『これで大好きなお漬物が食べられるよ』と笑顔でおっしゃっているのが嬉しかった。高齢な上、本土に行く機会もないため、少し不調があると巡回診療まで我慢しなければならない。そのため、巡回診療の必要さを感じられた。『待ってたんです』の言葉が印象的だった。

・歯科のない離島では限られた設備と器具で診療しなければならない。宝くじ号（こじか号）に必要な物を載せていて、歯科用のチェアがあるため、基本的な処置はできるようになっている。



こじか号に積んだ必要器材

デンタルエックス線写真は撮影できるが、パノラマエックス線写真は不可能のため、画像診断は困難である。よって、一口腔単位で全体を診ることは難しいと感じた。



エックス線写真の撮影

・『今』治療すべきなのか、それとも急がないから島外に引っ越した先で治療すべきのかなど、その人個人の背景を見て治療することが必要。治療方針の選択が難しいと感じた。

・急性症状が出た時や外傷などはどう対応するのか、疑問に思った。本土に行くのは遠く、本土への出港日も決まっているため、歯の痛みや歯肉の痛みを我慢しなければならない。外傷で歯が破折したり、骨折したりすることも考えられる。普段、急患には対応できないため、歯が保存できなかったり、治療が悪くなる可能性もある。そのような場合にどのように対応しているのか気になった。

・今回はほぼ一日だけの診療で、とても短く感じられた。もう少し島民の方とお話したかった。また、今回の巡回診療では小児を診ることはできなかった。子供達は冬休みに本土に行き、治療した可能性があった。